



第2号

令和8年5月28日

庄和すずらん幼稚園

園長 戸田 千里

## ★視点を改めてみると・・・

5月、本来ならば過ごしやすい陽気として「春爛漫」という言葉が似合う時期ですが、今年はまだかの「猛暑日」の便りが届く日があったかと思うと、肌寒い4月の陽気に逆戻りする日があったりと、気候に惑わされる日々が続きました。季節の花も例年より開花時期が早まっている傾向にあるようですね。季節感がずれてしまうと、体調管理にも注意が必要になります。園でも定期的に水分補給の声掛けを行い、日陰で遊ぶように促したりするなど、本格的な夏を迎える前に、体を暑さに慣らし、上手な水分補給の仕方も学んでほしいと思っています。梅雨の時期を迎えようとしている今、どうしても「雨」というと気持ちは下向きになってしまいがちですが、つい最近の山火事が鎮火に至るまでの日々、近隣の住民が、「雨をこんなに待ち望んだこともなく、雨がこんなにありがたいと思ったことはありませんでした。」というコメントを残したそうです。対岸の火事のように、わが身に降りかかっていないと、「雨」を恨めしく思ってしまう別の地域の人々もいます。その身に降りかかった事象に応じて、人の感情は大きく揺れ動いたり、または人の感情や行動により、事象が動かされることもあるかもしれません。「水不足」というニュースを見ると、強く雨を望むことも、その一つです。

少し視点を改めて行動に移してみると、違った何かが見えてくることがある、ということに気づかされます。子ども達への声のかけ方や、人物像のとらえ方、援助の仕方なども同様で、一方向からだけの働きかけではうまくいかないことが多々あります。視点を変えるというのは、同一人物がいろんな視点をもつということもそうですが、複数の人物による視点も多岐にわたり、多方面からとらえることが出来ます。

先日、ある年少組の女児が下駄箱付近で困り顔で立っていたので、「どうしたの？」と声をかけると、「靴がないの」という返答でした。「靴は何色？」と聞いてみたところ、何度も「靴がないの」という返答しか得られず、どうしたものかと考えた後、「靴の色、何？」という問いかけ方に変えてみました。すると「ピンク！」という返答が！そこでピンクの靴を探してみると、すぐに見つかりました。きっと「なにいろ？」の意味が呑み込めず、混乱していたのでしょう。危うく一方的に「言葉の理解力がまだ幼いのかな」と思ってしまうところでした。こうして、子ども達にいろいろなアプローチをしていく中で、私たちも多くのことを学ばせてもらっています。だから、楽しい！だから嬉しい！

私は山野草が好きで、歩きながら草花を見ることが多いのですが、同じ道を往復する際に、往路では見つけることが出来なかった草花を復路で見つけられることがよくあります。そんな時は、とても得した気分になります。これも行き帰りともに、同じ方向しか見ていないと、残念ながら発見には至りません。意識して視点を変化させることを楽しんでいきます。

「この子はこういう子」「この人はこういう人」という決めつけが、相手を追い詰め、それが、自身をも追い詰めているのかもしれませんが、視点を改めて関わってみると、案外自分自身への開放に繋がっていくのかもしれませんが、少しだけ視点を変えてみませんか？